

9 国際機関実務体験プログラム（育成・支援プログラム）

職員総括

横浜・みなとみらい地区の国際機関で100時間の実務体験を行うプログラムで、公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)と本学を含めた6大学との協働事業となっている。派遣先である国際機関も2018年度に2機関が新たに加わった。

派遣国際機関：アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC)

国際熱帯木材機関 (ITTO)

国際連合食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所

シティネット横浜プロジェクトオフィス (CITYNET YOKOHAMA)

独立行政法人 国際協力機構 横浜センター (JICA 横浜)

特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 (WFP) 協会 (2018年～)

日本貿易振興機構 横浜貿易情報センター (JETRO 横浜) (2018年～)

公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

加盟6大学： 横浜国立大学、フェリス女学院大学、横浜市立大学、國學院大学、
神奈川大学 (2018年～)、明治学院大学

国際協力や国際交流の実務を体験することにより、大学で修得した学問と実務機関での実践の融合を図り、将来、国際性豊かな資質を持ち世界的な問題を視野に入れて活動することができる人材育成を目的とする。

実務体験は、夏期と春期に行われ、派遣国際機関は6大学の中で分けられ、2018年度夏期は国際連合世界食糧計画(WFP)協会と国際熱帯木材機関(ITTO)へ1名ずつ、春期は国際連合食糧農業機関(FAO)へ1名の派遣が本学の割り当てとなった。

国際機関でのインターンということで、派遣学生の英語力については、「TOEIC650点程度」と明記されているものから、「ある程度の英語力」「英語環境に抵抗のない方」という表現になっているものもある。今年度の夏期は、2名派遣できたにもかかわらず、TOEICやTOEFL高得点の学生が応募者の中におらず、ITTOへの派遣は辞退せざるを得なくなった。その反面、春期は1名のみの派遣に対し、高得点の応募者が数名いたことから、この得がたきすばらしい機会を効率よく提供できないことに残念さが増した。

このプログラムに参加した学生たちが体験を終えた後、一回りも二回りも成長するため、今後に向けて、割り当て人数分派遣できるよう対策を講じたい。

(職員 北野順子)

◇派遣学生からの報告

※春期プログラムの報告は、2019 年度報告書に掲載予定です

活動先	特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画（WFP）協会
活動期間	2018年8月1日（水）～9月20日（木）
活動内容	1. 資金調達 2. プライベートセクターとの協働 3. 広報・情報発信

実施概要

2018年の夏休み期間中に国連 WFP 協会で 100 時間の実務体験を行った。

100 時間の中で、すべての部署での実務を体験することができた。デジタル寄付キャンペーンの企画や企業訪問、Facebook や Twitter に掲載する写真の選択、英語から日本語への翻訳を含む SNS への投稿準備、そして Face to Face（街頭でビラを配りながら毎月定額寄付をしていただくマンスリーサポーターを募ること）など非常にさまざまな仕事に携わることができた。他にも国連大学で行われた WFP キャリアセミナーのサポートも行った。

感想・活動を通して得た学び

駅で Face to Face を行った際、私が思った以上に国際問題に興味・関心を持っている人が少ないと痛感した。

デジタル寄付キャンペーンの企画は、一人では到底思いつけないようなアイデアが他のインターン生との協働により生まれ、改めてチームワークの大切さに気づかされた。

私はもともと人前で話すことが苦手であったが、この実務体験では人前に立つ機会も多く、チャレンジな場面も多かったため、苦手克服につながった。

主体的に学ぶことや、相手のことを調べ、相手の意見に耳を傾けたうえで質問を投げかけることの大切さも学んだ。

今後に向けて

エレベーターの乗る位置や、会議室の座る位置、目上の方とのメールの仕方など学生生活では学べないが、社会人になったらすぐに必要とされるスキルを身につけられたと思うので、これらを今後生かしていきたい。

他にもさまざまな職歴を持った方とお話しさせて頂くことができ、ある職に就いても、生涯その仕事しか知らずに生きるのではなく、さまざまな職業を体験していけると実感できたので、初めから理想の仕事に固執せず、柔軟に自分の将来や就職を考えていきたいと思う。また CSR 活動という言葉も初めて知り、就職活動をする際の一つの指標にしたいと思った。

(法学部政治学科)